



燕市生活環境課 課長 **しみず つよし 清水 強**

市の今後の取り組みを聞きました。

家庭ごみの削減と産業界の自然エネルギー利用

市として、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す、「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。

燕市の二酸化炭素排出量は部門別で、家庭部門からは14%、運輸部門からは16%、産業部門は70%を占めています。そこで、これまでの各家庭からの焼却ごみの削減を目的とする、再資源化や再利用

部門別に新たな取り組みを始める

家庭部門へは、ごみの減量化や再利用化につなげるため、不用品のフリーマーケットや学用品のリユース会を企

画する「MONO₂リユース事業」や、節電につながる「グリーンカーテン用の植物種」を無償で差し上げる取り組みを始めます。また、産業部門へは、企業の規模や業種の条件はありますが、「自家消費型太陽光発電利用促進補助事業」を新設し、事業者が再生利用の推進をいただけた取り組みを開始します。

自家消費型太陽光発電利用促進補助事業の詳細はこちら▼



子どもたちと植物を育てて意味を共有

ごみ拾いや節電など一人で行うことはもちろん、それ以外にまちづくり協議会をはじめとする地域の人たちや子どもたちと植物を育てて意味を共有することはできません。

一人ひとりが地球温暖化を意識した行動を起こしていくために、今起きている地球規模の環境変化や影響を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、理解を深めていくことが重要だと思っています。



近嵐さんが、地域のみなさんと育てているフイセンとチューリップ(場所: 吉田小学校花壇)

子どもたち、学校関係者と一緒に「花などの植物を育てる」ことに取り組んでいます。

緑を増やすことはCO₂の吸収量を増やすことにもなりますし、地域コミュニティが形成され、そこに参加した若者や子どもたちが理解をすることで、環境活動の継承にもつながると思っています。この活動を今後も続けることで、「ゼロカーボンアクション」に取り組む人が一人でも増えたらうれしいです。



エネルギーの節約・転換を実践

実践していることは、日頃の業務においてペーパーレス化や節電などをあたりまえに実施することで、社員一人ひとりの環境問題に対する意識改革を行っています。そのほか、太陽光パネルの設置やLED照明への変更、工場の天井に遮熱シートを施工し、冷暖房器具の使用を抑えるなど、エネルギーの節約・転換も実施しています。



▲導入されたLED照明と遮熱シート

これからは、インフラ整備の状況にもよりますが、営業用車両を電気自動車へ入れ替えたり、工場に使用する電力を自家発電・自家消費に転換するなどしたいと考えています。

カーボンニュートラルの実現には、地域が一体となって取り組んでいかなければいけません。太陽光発電の普及を推進することで、ゼロカーボンの実現に貢献していきたいと思っています。

電力の「地産地消」を進める

SDGsの目標達成のために会社ができることは何かと考えていたときに、太陽光発電関連の事業を行っていることから、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組むことにしました。企業がカーボンニュートラルに取り組むことは、SDGsの目標の「エネルギーをみんなに。そして

#わたしのゼロカーボンアクション

市民や事業所が実施している取り組みを紹介します。

環境保全活動

エネルギーを節約・転換

4R (リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ)

燕市環境審議会 元会長 **ちかあらし きゆうえい 近嵐 久榮さん**

エネルギーを節約・転換

太陽光パネル・省エネ住宅

CO₂の少ない交通手段

スワロー工業株式会社 代表取締役社長 **はらだ まさし 原田 雅史さん**